

連載 千座の置き戸（ちくらのおきど）

第二百八十六回 貨幣制度の話 その七

南出喜久治（令和8年2月15日記す）

かてともの たみがすべてを つくりだす かねはこれらの あはせかがみよ
(食料と商品、民が全てを作り出す、通貨はこれらの合はせ鏡よ)

金融資本主義（賭博経済）が、経済格差を加速させる。

それは、賭博経済を牽引する不動産業と金融業、さらに、賭博経済の担ひ手である投資家と称する博奕打ちが行ふ為替取引、商品取引などがあり、その全体を統括してゐるのが国際金融資本の集団である。

マーケットといふソフトな言葉で誤魔化してゐるが、これらは賭博を生業とする博奕打ちの輩のことである。

これらの博奕打ちの狙ひ目は、賭場（為替取引、証券取引、商品取引）に入り浸りになつて、博打で濡れ手に粟の暴利を貪ることであり、実業を食ひ物にする世の中のダニである。

株式会社制度は、上場してゐない会社は別として、上場会社の株式、社債その他の金融派生商品はすべて博奕の対象となる。

その中でも、最も安定した確実な利益を生むのがいくつかある。それは、メディア、軍事、医療などである。

大手の既存メディアは、いま存亡の危機にはあるが、まだまだその影響力は大きく、GAFAは、いまや言論空間を言論統制によって情報の独占をしてゐる巨大メディアを出現させた。情報を支配することは大きな利益を生むからである。

また、軍事と医療については、国家の防衛とか人の命を守るといふ口実には反対できないといふ人々の思考停止を利用して、この分野に積極的に進出する。

人命救助とか国家の防衛とか言へば、誰も反対できない。我が国では、国家防衛といふことに抵抗があるために、その反動として、どの国よりも医療といふことについては前のめ

りになつて完全な思考停止となり、際限なく無駄な国家予算をつぎ込んでゐるのである。

そして、博奕打ちの輩は、このことを狙ひ目として、これらに関係する株式会社の支配株主となつて、巨額の利益を追求するのである。

バンガード・グループ、ブラック・ロック、ステート・ストリートなどの国際金融資本の走狗は、世界的にメディア、軍事、医療を扱ふ株式会社の支配株主になつてゐる。我が国でも、少なくとも 30%の株式を取得して、そこからの利益と情報支配をしてゐるのである。

これらの国際金融資本は、株式配当を当てにしてゐるのではなく、会社支配による政策決定に絶大な影響力を行使して政府を支配することによる巨額な利益（レント・シーキング）を狙つてゐるのである。

レント・シーキングといふのは、私企業が政府に働きかけて、自己に有利な規制緩和や特権の付与などを求めることがあるが、レントといふ語源は不動産の賃料のことであり、シーキングとはそれを追求するといふ意味であるが、その賃料が格差社会を推進させる所得格差を生み出すといふことから、この言葉が生まれた。

その貧富の差、格差社会を解消するためには、まづは証券取引所、商品取引所を完全に閉鎖して、賭博経済から脱却することから始めなければならないが、これを主張する政治勢力は我々以外にはない。

これを実現せずに、MMT 理論を振りかざしても、世の中には何の役にも立たないのである。